

第8回 市長と話そう会
(西川登町町づくり推進協議会)

日 時 平成29年7月28日(金)
15:00～17:00

場 所 西川登公民館

参加者 西川登町町づくり推進協議会30名



市民の皆さまと市長が直接語り合う『市長と話そう会』第8回目は、西川登町町づくり推進協議会の皆さんとの意見交換でした。

まず、市長から市政について話し、その後、多数の意見をいただきました。

内容を抜粋して掲載しています。

《掲載にあたり、一部個人のプライバシーに関する部分などについては省略しております》

市長講演「武雄市のまちづくりについて」

・教育分野

今年4月から西川登小学校で官民一体型学校「武雄花まる学園」がスタート。

・福祉分野

「ゆりかごから墓場まで」子どもから高齢者までのすべてが福祉、これをどう維持して行くかが市の一番の課題であり、様々な知恵を出し市政運営をしていかなければならない。

・九州新幹線の状況

開通すれば、長崎まで20分で通勤、通学圏内になる。定住移住をどう勧めるのか。地域への愛着、郷土愛を作っていくことが大事である。

・武雄市ががんばる地域応援事業補助金の活用

ぜひ、西川登町内でも積極的に活用していただきたい。

意見交換

(参加者)

武雄に大学誘致する考えはないか？

(市長)

大学が来ると一つの街ができると言われる。当然、大学誘致はしたいと思っている。全日制の高校は武雄高校しかなく、やはり卒業後は市外に出ていく。それを機会に引っ越す人もいる。大学などへ働きかけている。併せて全日制の高校も誘致したい。

(参加者)

弓野市を盛り上げる会として、今後も継続できるように応援してほしい。

(市長)

「武雄市ががんばる地域応援事業補助金」を幅広く活用してほしい。あまり難しく考えずにまずはやってみようという感じで活用いただければと思っている。

(参加者)

お結び課はどのような取組みをされているのか。

独身の人が結婚し世帯が増えることで、西川登も栄えていくことを望んでいる。

(市長)

お結び課は北方支所内にあり、プライバシー面にも配慮して行っている。会員同士または内外でお付き合いして結婚したという実績もある。まずはぜひ登録していただき活用してほしい。

(参加者)

後継ぎの若い世代が地域に残りたいと希望を持てるような施策がないか。

そのためには、住宅の整備なども必要と思うが。

(市長)

佐賀県が三世代同居・近居をサポートするために住宅リフォームの補助金事業など取り組んでいる。これに同居手当を作ったらどうかなどの様々な意見も聞いている。県の事業に上乘せして、市で何ができるというのも課題に思っている。

生まれ育った故郷に住みたい人のための施策について今日意見をいただいたので、市の方でも考えて行こうと思っている。

(お住もう課)

住宅を新築したり団地を開発するには多額の費用が掛かる。武雄市では、平成27年度に空き家、空き地の調査を行ったところ、空き家の可能性がある個所を1000軒調査して830軒程度が空き家であることが判った。西川登町でも70軒程度の空き家もあるとわかっている。そこで、空き家利活用も先ほどの問題解決に繋がると考えている。また、費用もかけずに空き家利活用が進めば、移住にもつながっていく。定住特区の補助金制度もある。現在西川登町には1件だけ登録がある。登録物件が増えれば、空き家活用が増え、定住、移住も増えるので、紹介できる物件があればご紹介いただきたい。

(参加者)

リフォームして住める家だったらいいが、倒壊しかけた家もあちらこちらにある。防犯上などの心配もあり、地元でも所有者が判らない家もある。解体する方法ないのか。

(お住もう課)

27年度の調査で放置すると危険となる空き家等(特定空き家等)が432軒あることが判っている。市の条例で、緊急措置の必要な場合は防護柵等設置などの対処ができるようになっているが、根本的な解決とはならないのが現状である。

(参加者)

10年ぐらい前にオリーブを植えていたら、今年は実がついて、これは土地に合うかなと思っている。

(市長)

新しい特産品としての可能性を探っていただきたい。